

平成28年度 福岡県認知症医療センター 直方中村病院 活動報告
直方市認知症ケア向上推進事業―地域づくりに活かす認知症カフェ研修会―

【開催日時】平成28年9月3日(土) 13:30~16:00

【開催場所】サービス付き高齢者住宅たくみ苑(福岡県直方市植木595)

【内容】ワークショップ テーマ「遠慮の壁を破ろう」

【主催】認知症サポーターを広める会・直方市

現在、直方市内には認知症カフェが4ヶ所あり、カフェ昭和館という名称で呼んでいます。今回、直方市よりワークショップへの出務依頼があり参加致しました。ワークショップの目的は、ボランティアを行う側、受け入れ側の体制が十分ではなく、すり合わせを行うことと聞いております。

当日は①認知症カフェ 見学②ワークショップ テーマ「遠慮の壁を破ろう」(コーディネーター:佐藤靖典氏、NPO法人 福岡県レクレーション協会 専務理事、助言者:中島七海氏、天神オアシスクラブ 施設長、看護師等)です。

「認知症カフェのあり方と運営に関する調査研究事業 報告書」(公益社団法人 認知症の人と家族の会、2013年3月)によると、認知症カフェの要素・特徴は以下の通りです。

<認知症カフェの要素7つ> (22ページ)

要素1 認知症の人が、病気であることを意識せずに過ごせる。

要素2 認知症の人にとって、自分の役割がある。

要素3 認知症の人と家族が社会とつながることができる。

要素4 認知症の人と家族にとって、自分の弱みを知ってもらえていて、かつそれを受け入れてもらえる。

要素5 認知症の人とその家族と一緒に参加でき、それ以外の人が参加・交流できる。

要素6 どんな人も自分のペースに合わせて参加できる。

要素7 「人」がつながることを可能にするしくみがある。

<認知症カフェ10の特徴> (23ページ)

1. 認知症の人とその家族が安心して過ごせる場

2. 認知症の人とその家族がいつでも気軽に相談できる場

3. 認知症の人とその家族が自分たちの思いを吐き出せる場

4. 本人と家族の暮らしのリズム、関係性が崩さずに利用できる場

5. 認知症の人と家族の思いや希望が社会に発信される場

6. 一般住民が認知症の人やその家族と出会う場

7. 一般の地域住民が認知症のことや認知症ケアについて知る場

8. 専門職が本人や家族と平面で出会い、本人家族の別の側面を発見する場

9. 運営スタッフにとって、必要とされていること、やりがいを感じる場

10. 地域住民にとって「自分が認知症になった時」に安心して利用できる場を知り、相互扶助の輪を形成できる場

又、介護保険デイケアと認知症カフェの違いについても、「本人が主体性を存分に発揮できるかどうか」「本人と家族の関係性を変えるものかどうか」の2点を述べています。今回、初めて認知症カフェに参加しました。新オレンジプランにも謳われている認知症カフェですが、私自身、勉強不足を感じました。これを機に残り3ヶ所の内、2ヶ所参加予定ですので、理解を深めていきたいと考えております。

(葉室)